

【樹木の部屋】

オガタマノキ（モクレン科オガタマノキ属 *Michelia compressa*）

和名：オガタマノキ（招霊木・小賀玉木）

別名：オガタマ、トキワコブシ

英名：Japanese Banana bush

モクレン目 常緑広葉高木

原産地：日本、台湾

花言葉：畏敬の念

花の色：白



←↑ 写真-1、2 オガタマノキの樹形と樹肌

撮影日：2019年03月14日

撮影場所：松江城(松江市)にて

撮影者：M さん



←↗ 写真-3、4 オガタマの花・葉

撮影日：2019年03月14日

撮影場所：松江城(松江市)にて

撮影者：M さん

島根県松江市の松江城を訪れた際、天守台に至る石段の下で見かけました。名札も付いていました。見上げてみると、葉柄の付け根に白い、小さな花が咲いていました。

葉は倒卵状楕円形でやや肉厚の革質、表面には強い光沢があり、裏面には細かな毛が多く、白っぽく見えます。2～4 月にかけて、花冠が黄白色で基部がやや紅紫色を帯びた小さな花を、枝の先端近くの葉腋につけます。また、枝葉に隠れるように1輪ずつ開花するため、あまり目立ちません。

通常樹高は 10～15m の高木ですが、樹齢数百年を閲した木には 20m 以上に達するものも少なくないそうです。京都市上京区の白峯神宮には樹齢 800 年のものがあり、京都市天然記念物に指定されています。

本州南部(関東以西)からフィリピンにかけて分布するモクレン科の常緑樹で、日本で見られるモクレンの仲間では唯一の常緑性だそうです。

古くから神聖視され、神社仏閣では御神木とされることが多いそうです。和名は、葉を神前に供え、心霊を招くために使われたことから「招霊(オキタマ)」、これが転じてオガタマノキと名付けられたとの説があるそうです。また、ミカドアゲハの食樹としても知られています。